

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL.22 No.1

(通巻74号)

平成7年5月25日発行

編集・発行人 木村 卓

〒260

千葉市中央区中央港1丁目10番1号

☎043-242-8311(代表)

アリスティード・マイヨール

「レダ」 ブロンズ 一九〇〇年

(特別展「マイヨール展」出品 デイナ・ヴィエルニ・コレクション)



古代ギリシア神話において恰好の主題である、レダをモチーフとした作品です。白鳥の姿をしたゼウスに求愛され、顔を右下に向け、左手を前方にあげて拒絶しようとしているレダを細部にこだわらず、豊かなボリュームによって安定感のある作品に仕上げられています。

一九〇二年のヴォラール画廊での初個展に出品された、この作品を見たロダンは、「…そこに小さなブロンズの像があるのが見えるだろうが、これはすべての人に模範となるろう…そう、マイヨールは彫刻の天才なのだ」と絶賛しました。

マイヨール(一八六〇―一九四二)は、地中海に面した南フランスに生まれ、はじめ画家を志し、パリの美術学校で学びました。その後、ボナールらと親交を結びますが、やがて彫刻に転じています。

彫刻家としてのマイヨールは、女性の裸体を生涯のテーマとし、自ら創造した、自然には存在しない美と、フォルムの単純化を追求し、おらかな地中海芸術の伝統に根ざした独自の様式を作り上げ、ロダンから現代彫刻に移行した時期の代表する作家として評価されています。

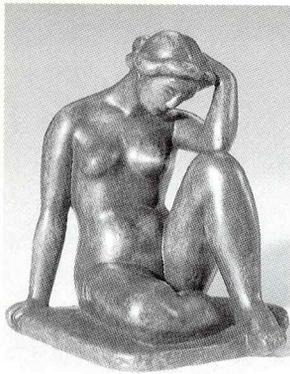
(三浦 拓郎)

県民の日
記念事業

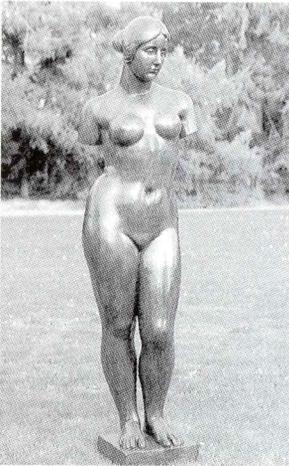
特別展

マイヨール展

'95・5・27(土)〜7・2(日)



「地中海」1905



「ヴィーナス(腕のない)」
1922



「花飾りのニンフ」1931

マイヨールは、はじめ絵画を描いていました。ゴーギャンの影響を受け、モーリス・ドニ、ヴエイヤール、ボナールらと交わりナビ派の画家として活躍しています。彼は、「ゴーギャンとモーリス・ドニが私の目をひらいてくれた。彼らによって、私は知性の第一段をのぼったのだ」と述べているように、ナビ派の画家たちが持つ革新的精神を身に付けました。

「自分自身の中の絶えまない探究の気晴らしをするため」に、四十歳頃より本格的に彫刻に取り組みます。近代彫刻は、ロダンが古典的伝統を破壊して、写実に基づく新しい感性による造形で一時代を確立されました。そして、その後、ふたつの方向へ展開します。そのひとつは、ブールデルが巨大なモニュメント彫刻を制作し、清新な構築的空間を生み出しました。他のひとつがマイヨールで、優美な人間の形象を求め続け、

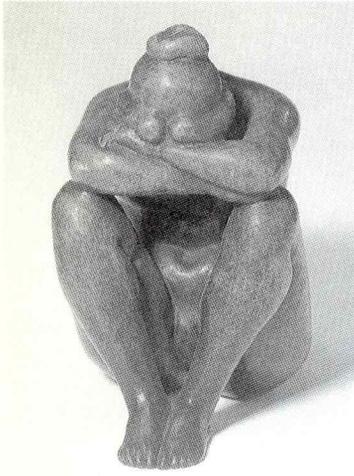
彼の単純で素朴な官能的なフォルムは、二十世紀彫刻の出发点となり、ブランクーシ、デュシャン、ヴェイヨンや球型と卵型に芸術の根源を求めたジャン・アルプを出現させています。マイヨールの芸術についてモーリス・ドニは、「彼の芸術は本質的に総合の芸術である。彼は、それに到達することにいかなる理論をも用いることなく、ただ彼自身の本能の聲に従った」と述べています。その本能を呼び起こした要素

に注目することができます。マイヨールは、ロダンが否定した古典的伝統による類型的様式に人間形態の理想的な秩序を見出し、均衡と調和のとれた健康で整然とした人間像を追求します。そしてロダンの悲観的な人間臭さを拒否し、単なる写実に留まることなく、全ての無駄を削ぎ落として典型的な人間を創造し、活発な生命が体いっぱいに充滿するふくよかな裸体へと展開しています。

このフォルムは、決して古典的類型的様式ではなく、また、ロダンの写実的人間像の範疇に含まれるものではありません。異次元としての新しい典型として表現されています。過去に画家であった時、ナビ派から受け継いだ革新的精神が、古典的類型的様式の中から、多様な面や細部を削ぎ落した明快なフォルムを生み出す源動力となりました。このフォルムには、基本的な幾何学図形、たとえば正方形、三角形、菱形で構成された一種の抽象性が潜んでいます。マイヨールは、「私は形のないう形に到達するために形を追求するつもりだ」と述べています。彼のフォルムの追求は、二十世紀の彫刻の先駆となり、今日のあらゆる彫刻家の出発点となっています。

展覧会について

本展は、マイヨールの没後五十年を記念して開催されるもので、ロダンの絶賛を浴びた「レダ」、一九〇五年にサロンに出品して彫刻家としての名声を得た最初の大作「地中海」などの初期の代表作をはじめとし、「春」「イル・ド・フランス」「ニンフ」などのほか、日本で初めて公開される大作「横たわる少女」、レリーフの「座る女(波)」など十八点を含めた七十三点の彫刻に素描十六点、版画四点を加えて、九十三点の作品を展示いたします。これにより、裸婦を通じて彫刻の永遠の本質を表現しつつけたマイヨールの魅力を紹介するとともに、マティス、ピカソ、カンディ



「夜」1902

ンスキーらの偉大な先駆者たちが近代絵画界に転機をもたらせたのと同様に、ロダンから二十世紀の彫刻への移行期に多大な影響を与えた彼の芸術を回顧することのできる機会となることでしょう。
(前川 公秀)

★開館時間・休館日
午前九時～午後四時三十分
(入場は四時まで)
月曜日休館

★観覧料
一般七〇〇円(四〇〇円) 高
大学生四〇〇円(二五〇円)
小中学生二〇〇円(七〇円)
(一)内は二〇名以上の団体
料金

■六月十五日(木)の「県民の日」は無料となります。

常設収蔵作品展

- 常設収蔵作品展では、今年度は、次の十四のテーマで順次展示します。このうち、①「新収蔵作品」(平成六年度新たに収蔵した日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の作品を紹介)と、②「富取風堂の日本画」(今村紫紅を中心に速水御舟らと「赤曜会」を結成し、日本画の革新に力を注いだ富取風堂の「朝光」「葛西風景」「秋の草」など三十二点を紹介)については、四月一日から五月三十一日まで開催しました。
- ③「フォンタネージとバルビゾン派」(五/二十七～七/二)では、ミレー、コロローなどのバルビゾン派の作品とその流れの中に位置するフォンタネージの作品を紹介します。主なものは、フォンタネージの「十月、牧場の夕べ」、ミレーの「垣根に沿って草を食む羊」、コロローの「ナポリ近郊の思い出」などです。
- ④「小堀進・中西利雄・不破章の水彩画」(七/八～九/三)では、明治以降盛んに描かれた水彩画の発展に尽力した三人の作家の作品を紹介し
- ます。
- ⑤「人物の表現」(七/八～九/三)では、人物をモチーフとして表現した、日本画、洋画、彫刻、版画などの作品を紹介いたします。
- ⑥「信田洋の金工」(七/八～九/三)では、金工研究団体「工人社」で活躍し、近代金工界をリードし続けた信田洋の格調高い作品を紹介いたします。
- ⑦「陶芸の世界」(九/九～十/八)では、様々な技法により表現された陶芸作品を紹介し、その魅力に迫ります。
- ⑧「浜口陽三の版画」(十一/二十五～十二/二十四)では、繊細な明暗と色彩の変化を特徴とする、メゾチントの技法により、世界的な活動を続ける浜口陽三の版画を紹介します。
- ⑨「石橋武治の風景画」(十一/二十五～一/二十一)では、風土性豊かな画風で、水郷の風物を描き、光風会で活躍した石橋武治の風景画、「白鷺のいる風景」、「筑波遠望」、「水辺初夏」などを紹介します。
- ⑩「鶴田吾郎の世界」(一/五～二/二十五)では、中村彝とともに中村屋グループの一人として活躍し、その後、山岳絵画の普及につとめた鶴田吾郎の芸術を紹介します。
- ⑪「絵画に表現された風俗」(二/五～二/二十五)では、単なる人物画や風景画ではなく、生活の中に伝えられる儀式や風習、あるいは風物などを表現した日本画、洋画を紹介いたします。
- ⑫「彫刻」(二/五～四/十四)では、木やブロンズなど様々な素材や技法によって表現された、彫刻作品を紹介します。
- ⑬「堀江正章と旧制中学の弟子たち」(一/二十七～二/二十五)では、旧制千葉中学で三十五年間後進の育成に力を注ぎ、多くの逸材を育てた堀江正章とその教え子である石井林響、柳敬助、板倉鼎らの作品を紹介いたします。
- ⑭「浅井忠」(三/二～三/二十四)では、千葉県ゆかりの近代洋画の先駆者浅井忠の芸術とその生涯を、彼の師弟や周辺作家の作品と併せて紹介します。

* * * * *

展覧会案内

▼特別展 沖縄の工芸美術

日本の最南端に位置する沖縄は、古くから海上交易等を通じて諸技術を導入するとともに、亜熱帯性の気候風土に合った独自の工芸美術を育んできました。

たとえば、鮮やかな色彩の「紅型」や漆器の「朱漆」、壺屋に代表される陶芸、さらには、多様な技法と種類を有するといわれる芭蕉布などの織物です。

本展では、これまで鑑賞する機会が少なかった十八〜十九世紀を中心とした琉球・沖縄工芸の精華を一堂に展覧し、併せて、同じ黒潮文化圏にある房総との関連を考える資料も展示します。

(会期) 九月九日(土) ~ 十月八日(日)

▼房総の美術家シリーズ(24) 高澤 南 総展

房総の美術家シリーズは、房総に生まれ、あるいは定住して、近代日本美術界において活躍し、美術振興のために貢献した美術家の再発見と顕彰をめざし開催しています。

今回は、袖ヶ浦市に生まれ、千葉市に居住して、永く本県書道界の発展に尽力した書家の高澤南総(一九一〇〜一九九二)に焦点をあて、その業績を回顧します。

(会期) 十一月十一日(土) ~ 十二月十七日(日)

▼第19回 千葉県移動美術館

より多くの県民の方々に、本館所蔵の作品を鑑賞していただけるように、県内二会場で開催をします。本年度は三芳村農村環境改善センターと我孫子市民プラザギャラリーを会場として実施します。

展示作品は、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・版画の各分野にわたる約四十〜五十点を予定しています。

各会場の開催期間は次のとおりです。

■三芳村農村環境改善センター
一 安房郡三芳村谷向
十一月十六日(木) ~ 十一月二十八日(火)

■我孫子市民プラザギャラリー
一 我孫子市我孫子一四二
一 一 あびこショッピング
プラザ内三階
十二月一日(金) ~ 十二月十三日(水)

新収蔵作品紹介

平成六年度に収蔵された作品は次のとおりです。

購入

〔日本画〕
吉田登毅「玉堂富貴」

〔洋画〕
浅井 忠「橋」

〔にわとり〕
河上左京「静物」

丸山晚霞「初夏」
三宅克己「ローマ」

〔工芸〕
駿州三嶋在の緑陰

香取秀真「烏銅鳳凰香炉」
〔馬鐸〕
〔美々豆久香爐〕

香取正彦
〔鑄銅四神文四方花瓶〕
〔からかね水注〕

〔金銅童形聖徳太子像〕
〔玉装花瓶〕
〔臙銀黄銅鑄分六方口花瓶〕

〔銅花瓶〕
〔鑄銅花瓶〕

津田信夫「天燈鬼像」
〔竜燈鬼像〕
〔達磨大師坐像〕

土肥紅繪「小袖随想」
土肥 満「蹲踞」

宮之原謙「彩盛百合文壺」

〔版画〕
浜口陽三「貝」

〔書〕
石井雙石「篆刻印材等一括」
(計九八点)

寄贈

次の作品を御寄贈いただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

〔日本画〕
岩崎彌寿彦氏より
岩崎巴人
〔流水と河童遊泳戯画〕

島田良祐氏より
島田良祐「層雲峡(二滝)」

〔洋画〕
秋元由美子氏より
秋元松子「静物」

秋吉澄子氏より
秋吉 匠「老婆」
石川暁子氏より
石井柏亭「或尼僧」

小川イチ子氏より
小川イチ子「春のおわり」
高松健太郎氏より
高松健太郎「海辺・星」

西嶋俊親氏より
西嶋俊親「運河静閑」
高橋真氏より
三上義人「風景」

〔工芸〕
上野泰郎氏より
上野斌郎

保管換え

〔彫刻〕
県環境部水質保全課より
安田 侃「天泉(マケット)」

〔書〕
金子四郎氏より
金子聰松「孟浩然詩」
福田次夫氏より
福田丞洲「摩訶般若」

〔花かげ〕
〔今日も明日も〕
〔シニョリア回廊〕

〔朝鮮風俗染色三曲衝立〕
〔並木〕
〔森の裸婦染色壁掛〕
〔林間水浴染色壁掛〕

〔草花〕
〔収穫〕
〔深澤政子氏より〕
深澤範子

〔香取秀真「烏銅鳳凰香炉」〕



香取秀真「烏銅鳳凰香炉」

美術講演会

本年度は、各展覧会に併せて、美術講演会を四回実施する予定です。

第一回目の特別展「マイヨール展」の開催期間中における講演会を紹介します。

日時 六月十日(土)
午後二時より
演題 「ロダン・ブルデル
・マイヨール」

講師 下山 肇氏
(静岡県立美術館学芸部長)
会場 千葉県立美術館講堂
対象 二〇〇名(当日先着順)
聴講料 無料

下山肇氏は、京都大学文学部美術史学科博士課程修了。兵庫県立近代美術館、京都市美術館を経て、現在は静岡県立美術館の学芸部長を務められています。同館において、平成六年三月にオープンしたロダンの設立に尽力されました。

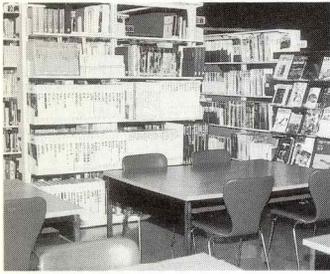
今回の講演会では、そのロダンや、マイヨールと同時代に活躍した彫刻家ブルデルの作風などにも触れていただき、マイヨール芸術の特徴を明らかにしていただきます。

情報資料室だより

●購入図書のご案内

昨年度下半期、左記の図書を購入しました。どうぞ御利用ください。

- 作品集
「万祝」「琉球紅型」「野田哲也全作品」「山下清・日本の風物」「千甕画集」「浜田知明作品集コンプリート1983」「マレーヴィチ画集」「京都画壇の十九世紀」「昭和の文化遺産9巻 書、10巻 建築」「昭和の美術1 元年～10年」「長野県美術全集1、67」「ドイツ表現派ブリュッケ」「日本の文様10～18」「ブランクーシ作品集」「美術館シリーズ7ルーヴル美術館、9ウフィツィ美術館」



情報資料室

- 美術評論・研究書
「芋銭随考」「高橋由一 油画の研究」「回想の旅」「美術家修行」「クレールの絵と音楽」「近代の版画」「世界の中の日本絵画」「日本の憂愁」「河北倫明美術時評集1」「川村清雄研究」「バウハウス叢書8 絵画・写真・映画」「高村豊周文集4」「大英博物館の舞台裏」「ミイラにダンスを踊らせて」
- 美術辞典・資料集
「明治期美術展覧会出品目録」「世界ナイーブ美術百科事典」「五體字類」「鑄物師銘譜」「アート・オークション・データブック3」「子供の創造力を育む世界の86館 わくわくミュージアム」
- 技術書
「絵画技術全書」「仏像事典」「彫刻とその制作過程と原理」

※特別展「マイヨール展」開催に際し、彫刻に関する図書を左記のとおり、一部紹介いたします。

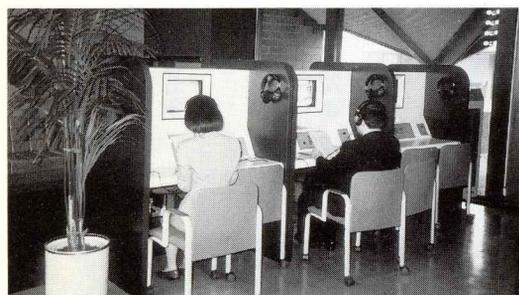
- 彫刻の歴史・評論
「森の掟」「彫刻の歴史」「彫刻真髓」「藤川勇造ノート」「明治の彫塑」「石井鶴三全集」

- 「高田博厚著作集」「マイヨールの芸術」「孤鷹遺集」
- 彫刻家作品集
「ジャコモッティ」「プランクーシ作品集」「マリノ・マリーニ」「ジャコモ・マンズー」「ロダン」「メダルド・ロツソ」「菊池」「雄作品集」「本郷新彫刻集」「定本 木内克」「木下繁彫刻集」「斎藤素巖」「佐藤忠良作品集」「清水多嘉示作品集」「舟越保武作品集」ほか
- 開室日
火・金曜日(祝日・休館日を除く) 十二時三十分～四時三十分。なお、貸出し・コピーサービスは行っていません。

個別ビデオライブラリー

県民アトリエ情報資料室前のロビーに設置したビデオライブラリーには、さまざまなジャンルのビデオがあります。開館の間、自由に視聴いただいております。

作家紹介、美術作品の鑑賞方法、日本及び西洋美術史、国内の美術館紹介などのビデオソフトを常時四十本用意して、順次入れ替えています。ぜひ御利用ください。



個別ビデオライブラリー

- 作家紹介
「奥田元宋」ほか十四本
- 日本美術史
「にじみの感覚」ほか五本
- 西洋美術史
「中世の面影」ほか九本
- 美術館案内
「石橋美術館」ほか三本
- 制作・鑑賞
「小学生の図画工作」三本
「鑑賞とふれあい」掛け軸
ほか一本

ごあんない 実技講座 (6月以降)

◆版画講座

会期 7月4・5・6・8・
9・11・12・13・15・
16・18・19日
(12日間)
講師 増田 陽一氏
内容 銅版、亜鉛版によるエ
ツチング、アクアチン
トなど

定員 20名

縮切 6月20日

◆陶芸講座

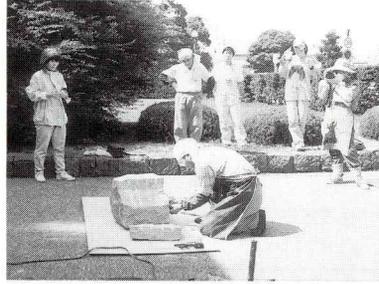
時期 7月25・26・27・28日
8月29日
9月5・13日
講師 鎗田 和平氏
内容 陶器(茶碗、花器など)
定員 30名
縮切 7月11日



陶芸講座

◆彫刻講座

会期 10月17・18・19・20・
21・24・25・26・28・
29・31日・11月1日
(12日間)
講師 石橋 亘氏
内容 石彫
定員 15名
縮切 10月3日



彫刻講座

◆書芸講座

会期 11月7・8・9日
(3日間)
講師 中村 象閣氏
内容 漢字、かな
定員 25名
縮切 10月24日



書芸講座

◆金工講座

会期 1月23・24・26・27・
28・30・31日
2月1・3・4・5・
6日(12日間)
講師 小林 正利氏
内容 銅版レリーフ
定員 15名
縮切 1月9日

◆申込方法

往復はがきに希望講座名、住所、氏名、電話番号を明記のうえ、(ハガキ一枚につき一名)美術館普及課までお申し込みください。
なお、定員を越えた場合には抽選となりますので御了承ください。

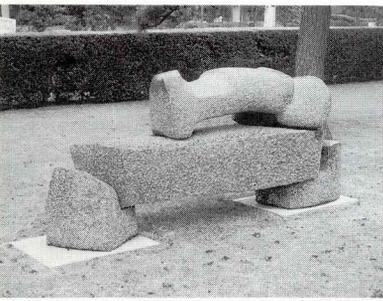
野外彫刻の設置

収蔵している彫刻作品の中から石を素材にした彫刻作品を七点選び、平成七年三月から美術館の庭に仮設置して、来館された方々に鑑賞していただいております。

引き続き、七年度においても、敷点を増置して外構整備を図ると同時に、彫刻作品公開の場の拡大充実に努める予定です。

なお、このたび設置した作品は次の通りです。

高田大「リラックス」青木三四郎「憩い」田中毅「草枕の旅」中岡慎太郎「FANTASY」零駒無蔵「過ぎし日のアパート」「集う人々の列に」酒井良「時を刻む」



職員異動

平成六年度末人事異動により、次の職員が替わりました

◆転出者

津田 昇 (研究員→船橋市立若松中学校教頭)

◆転入者

太田 武彦 (千葉県総合教育センター研究指導主事→研究員)

〈交通案内〉

- JR総武線「千葉駅」より「千葉ポートタワー」行バス15分「美術館・郵便局前」下車徒歩1分
- JR京葉線「千葉みなと」駅下車徒歩8分

